

アライプロバンス

葛西の大型施設の竣工パーティー開催 多用途・小区画対応の「都市型物流拠点」



「アライプロバンス葛西A棟」

アライプロバンス（本社・東京都墨田区、新井太郎社長）は23日、大型マルチテナント型物流施設「アライプロバンス葛西A棟」（東京都江戸川区）の竣工パーティーを現地で開催した。都内最大級となる延床面積約8万7122㎡の鉄骨造地上5階建て、ダブルランプウェイ

方式を採用した「都市型物流拠点」として8月に竣工。各階の倉庫は4区画に分割して賃貸可能な設計で、2・3階には、「HYPERSPACE/ LOGISTICS」と称する多用途・小区画分割可能ゾーンを設定、最低350坪から利用できるのが特徴だ。

「2024年問題」、
立地がソリューションに

竣工パーティーで新井社長は、「当社は昨年120周年を迎えた。その100年以上は新井鉄工所、つまり製造業としての歴史だった。石油掘削関連製品を製造してきたが、時代の流れ、産業構造の大きな変化により、日本で、しかもこの東京で行う事業ではなくなってしまう。『100年以上続いた経営

の灯を、決して絶やすことがあってはならない』という強い信念のもと、180度の業態転換を図り、次の100年につなげるべく、第二の創業の道を選じた。当社の財産、経営資源は何か——と考え、葛西と浦安の工場跡地を最大限活用しようというのが、導き出した答えだった」と振り返った。

「2016年に『物流クライシス』という言葉が叫ばれ、東京近郊に物流倉庫が不足し、このままではパンクしてしまうという問題を聞き、「これだ」と思った。3年前に『アライプロ



「HYPERSPACE/ LOGISTICS」を実現